

7/13 2012

# 原発 消えた優位性 重い安全対策・事故費

コストが最も安いとされる発電方法が、原発から太陽光に変わろうとしている。経済産業省の試算では、2030年には太陽光の方が原発よりおおよそコストが低くなる見通しだ。政府や大手電力会社は原発の安さを強調してきただけに、エネルギー政策への影響は避けられない。

▼1面参照

原発のコスト増の大きな要因は安全対策費だ。東京電力福島第一原発事故で規制が厳まり、過酷事故などを想定した対策工事が必要になった。かかる費用は、今回は15年の前回試算より1基あたり13369億円増えるの見込み。

政府は16年末に処理費用を上方修正したが、今後さらにふくらむのは確実だ。原発では費用が増えそうなる要因がほかにもある。使用済み燃料を再処理する日本原燃の「六ヶ所再処理工場」（青森県六ヶ所村）の総事業費は約14.4兆円となっている。工場の完成の遅れもあって前回の12.6兆円から増えた。原発から出る高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の

■発電コストのおもな試算  
(コストは1キロワット時あたり、30年のカッコは15年の前回試算)

| 種類  | 2020年 |        | 2030年                    |  |
|-----|-------|--------|--------------------------|--|
|     | 原子力   |        | 11円台後半以上(10.3円以上)        |  |
| 太陽光 | 事業用   | 12円台後半 | 8円台前半～11円台後半(12.7～15.6円) |  |
|     | 住宅    | 17円台後半 | 9円台後半～14円台前半(12.5～16.4円) |  |
| 風力  | 陸上    | 19円台後半 | 9円台後半～17円台前半(13.6～21.5円) |  |
|     | 洋上    | 30円台前半 | 26円台前半(30.3～34.7円)       |  |
| 火力  | LNG   | 10円台後半 | 10円台後半～14円台前半(13.4円)     |  |
|     | 石炭    | 12円台後半 | 13円台後半～22円台前半(12.9円)     |  |

処理費用もある。地下深くに埋める最終処分場をつくる。地下深くに埋める最終処分場をつくる。地下深くに埋める最終処分場をつくる。

## 政府 重視姿勢変えず

原発の発電コストは、試算のたびに高くなってきた。それでも、経産省は安定的に電力供給できる「ベースロード電源」だとして重視している。

太陽光は夜間は発電できず、風力などは天候によって発電量が左右される。再生可能エネルギーが増えず、価格低下が見込まれる。再生可能エネルギーの導入が進みそうだ。

龍谷大学の大島堅一教授（環境経済学）は「原発が経済性に優れているという根拠はなくなった」と指摘する。（新田哲史）

民党内にも原発のリブレス（建て替え）や新増設が必要だとの意見は根強い。梶山弘志経産相は「既存の原発の再稼働を進めることが重要だ」としてきた。政府は近く改定するエネルギー基本計画でも、原発を一定程度維持する方針は変えないとみられる。（平林大輔）